

製品名: カベオリン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08021**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CAV1
別名	CAV1; CAV; Caveolin-1
遺伝子 ID	857.0
SwissProt ID	Q03135
免疫原	抗血清はヒトカベオリン-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 129-178

背景

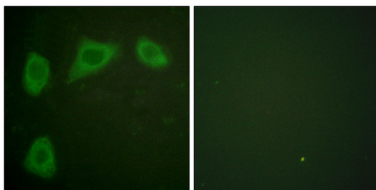
この遺伝子によってコードされる足場タンパク質は、ほとんどの細胞種に見られるカベオラ細胞膜の主成分です。このタンパク質は、インテグリンサブユニットをチロシンキナーゼ FYN に連結し、インテグリンを Ras-ERK 経路に結合させ、細胞周期の進行を促進

する最初のステップとなります。この遺伝子は腫瘍抑制遺伝子候補であり、Ras-p42/44 マイトジェン活性化キナーゼカスケードの負の調節因子です。カベオリン 1 とカベオリン 2 は 7 番染色体上に隣接して位置し、共局在するタンパク質を発現して安定したヘテロオリゴマー複合体を形成します。この遺伝子の変異は、ベラルディネリ・セイプ先天性リポジストロフィーと関連付けられています。選択的スプライシングを受けた転写産物は、カベオリン 1 の α および β アイソフォームをコードする。[RefSeq 提供、2010 年 3 月]、疾患: CAV1 の欠陥は、先天性全身性リポジストロフィー 3 型 (CGL3) [MIM:612526] の原因である。ベラルディネリ・セイプ先天性リポジストロフィー 3 型 (BSCL3) と呼ばれる。先天性全身性リポジストロフィーは、脂肪組織のほぼ欠如、極度のインスリン抵抗性、高トリグリセリド血症、脂肪肝、および早期糖尿病発症を特徴とする常染色体劣性疾患である。機能: カベオラ膜内で足場タンパク質として機能する可能性がある。G タンパク質 α サブユニットと直接相互作用し、その活性を機能的に制御することができる。オンライン情報: カベオリンエントリ, PTM: アイソフォーム β の開始メチオニンは、翻訳中または翻訳直後に除去される。新たな N 末端アミノ酸は N アセチル化される。類似性: カベオリンファミリーに属する。細胞内局在: 膜上でヘアピン様構造を形成する可能性がある。カベオラの膜タンパク質。サブユニット: ホモオリゴマー。GLIPR2、NOSTRIN、SNAP25、シンタキシンと相互作用する。ロタウイルス A の NSP4 と相互作用する。組織特異性: 筋肉と肺に発現するが、肝臓、脳、腎臓では発現が弱い。

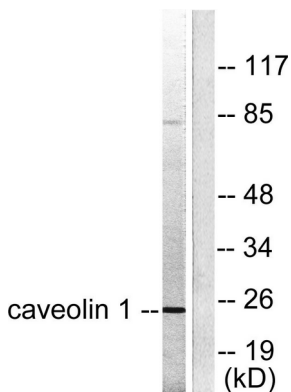
研究分野

接着斑; ウイルス性心筋炎;

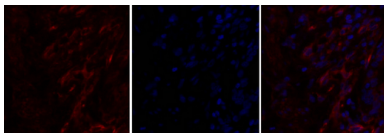
画像データ



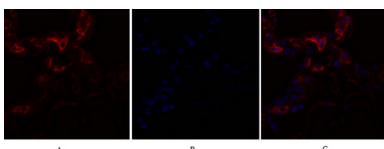
カベオリン-1 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



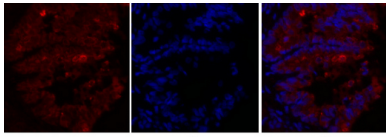
カベオリン-1 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



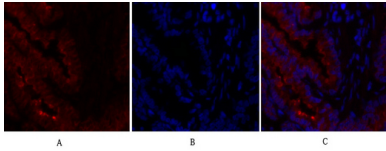
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



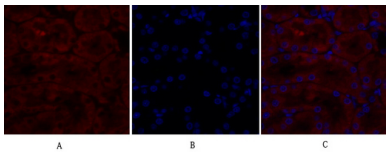
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



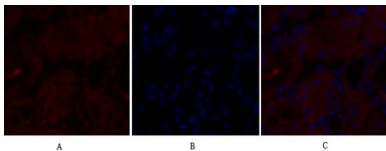
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



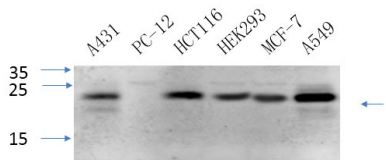
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: 標的。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, カベオリン-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: 標的。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



1:1000 希釈の Caveolin-1 ウサギポリクローナル抗体 (4°C、一晚) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。